

増員元年を合い言葉に、職場から 違法・脱法行為、パワハラの一掃を

国土交通省
管運職ユニオン

NO. 226
2014. 5. 21

発行
国土交通省管理職
ユニオン
所在地
東京都千代田区霞ヶ
関 2-1-2 中央合同庁
舎 2号館
TEL 03-3509-1138
Eメール
k-union@alpha.ocn.
ne.jp
ホームページ
http://www7.ocn.
ne.jp/~k-union



本大会で、運動の総括では、消費税増税による景気の「底割れ防止」のため、予算消化第一主義の公共工事の「乱発」によるコンプライアンス無視、パワ

六〇歳後の働きがいの持てる業務と処遇を実現しよう！

国交管ユニオンは、五月一七・一八日の両日愛知県豊橋市「ホテルシーパレスリソート」において、第一七回定期全国大会を開催しました。大会には、国公労連千葉中央執行委員、国土交通労組下田副委員長をはじめ代議員・役員・来賓・傍聴者など二日間延べ一三二名が参加し、一年間の運動の総括と今後一年間の運動方針などを満場一致で採択し、委員長として河野氏（近畿）を再選、新事務局局長として塩治氏（中部）等の新役員を選出しました。

ハラが横行している職場の生々しい状態の報告や、職場の先頭に立って奮闘している管理職ユニオン組合員の声が、支部・本部に届き、地整・本省の折衝・交渉を通じて少しではあるが、是正されていることなど、ユニオンへの期待の大きさが報告されました。義務的再任用の原則フルタイム勤務を、国土交通省は国家公務員の職場の中で唯一、地方整備局と地理院で原則を歪め、四日勤務を押し付けて強行させ、全国で定員が余っているにも関わらずフルタイムを実施しないことへの怒りの深さが明らかとなりました。加えて、再任用職員の処遇の悪さ、退職手当の引き

第一七回定期 全国大会を開催

下げの中で、早期退職者募集制度が実施され「天下り」が半ば公然と動き出してい

河野委員長 塩治新事務局局長を選出

2014年度中央執行委員

役職	氏名	年齢	支部	事務所
委員長	河野 健次	58	近畿	淀川河川
副委員長	山本 敏一	58	北陸	飯豊山砂防
副委員長	星野 豊	54	関東	東京国道
副委員長	山本 健二	56	近畿	琵琶湖河川
副委員長	神野 隆司	55	九州	川内川河川
副委員長	中島 最郎	54	地理	関東測量部
事務局長	塩治 康人	55	中部	庄内川河川
事務局次長	中山 幸男	63	関東	専従
事務局次長	鷹野 弘行	54	中部	浜松河川国道
事務局次長	原 昭二	52	近畿	淀川河川
執行委員	加藤 桂一	56	東北	酒田河川国道
執行委員	羽深 圭一	54	北陸	羽越河川国道
執行委員	安藤 勇	58	関東	首都国道
執行委員	海野 鐘弘	58	中部	庄内川河川
執行委員	西村 政司	53	近畿	六甲砂防
執行委員	牛尾 正孝	58	中国	中国技術
執行委員	阿部 勝義	48	四国	高知河川国道
執行委員	堀之内 幸昌	53	九州	筑後川河川
執行委員	上村 和彦	52	地理	地理測地部
会計監査	村岡 基晴	53	関東	利根川下流河川
会計監査	米山 浩三	52	中部	沼津河川国道
事務局員	西村 正美	62	近畿	淀川河川
事務局員	山守 隆	64	関東	渡良瀬川河川

ることも報告されました。いずれも、国土交通省の行き過ぎた定員削減の実行や、人事院の報告にある定年年齢の段階的引き上げの未実施による引き上げの大き影響しています。管理職の処遇の課題では、一昨年の昇格発令に於いて定年二年前での六級昇格が大幅に切り込まれ、昨年からは本省当局による全国一律化一定年一年半前六級昇格」という動きが明確にとなった一方、五級昇格定数が拡大され、処遇改善が進んだことが報告された。また、七八%もの給与切り下げという「特例法」の



延長を許さない闘いには、職場の多くの仲間の共感を呼び、短期間に多くの署名が集約され、結果として延長を断念させました。

今後一年間重点的に取り組む要求と運動として、

- ①東日本大震災からの復興と防災対策強化
- ②「国民の安全・安心を守る」ための道州制反対
- ③政府・人事院が進める「給与制度の総合的見直し」の絶対阻止
- ④フルタイム勤務の義務的再任用、定年延長の実施
- ⑤誰でも五五歳までの六級昇格実現に向け、評価替えや級別定数拡大

⑥管理職員の深夜・防災出勤時の超過勤務手当支給

- ⑦国民の安全・安心を守る業務執行体制確立と我々の生活と健康を守るため、一人でも多くの増員実現
- ⑧職場から違法・脱法行為、パワハラの一掃
- ⑨組織拡大と組織強化
- ⑩共闘、共同の重視などの実現に向け活動。等の運動方針を満場一致で採択しました。

今公共事業に求められているもの ユニオンとして目指すもの

が求められています。

今回の大会では、昨年全国活動者会議で発表し、その後の職場議論で補強された「仕事の政策」をもと、今公共事業に求められているものやその執行体制についての議論が交わされ、以下の8つ課題の解決を目指す事を確認しました。

1. あるべき予算要求と求と予算執行の実現

国民合意の予算要求とすることが私たちの任務であり、老朽化対策や安全安心のための予算確保が重要。その執行に当たっては、「無駄のない」「手戻りのない」「不正のない」執行

2. 入札契約制度の手続きの見直し

公共事業の不正腐敗、「官・財」の癒着構造を断ち切ることが最大のポイントです。ところが手続きが複雑多岐にわたり発注・受注者から見直しの声もあり、その簡素化に向け職場から問題指摘し改善を図ります。



3. 設計業務の審査や検査・監督業務に重点を

予算消化を優先するがあまり、現場を無視した設計で発注され、結果として、工事中止や手戻りなどが発生し結果的には無駄な時間と予算が使われています。また、国民の財産を民間に監督と検査を任ず事は許されません。

4. 増員なくして安全安心、そして真の公共事業の発展はない

業務上生じている多くの問題の根源は、大幅な定員の安全安心を守る業務執行体制を守るためこれ以上の定員削減に歯止めをかけ、職員の増員を目指します。

5. 管理職員の健康と家庭を守る

職場では、精神的・肉体的に追い込まれた職員が健康被害を起し、休職せざるを得ない実態が多数生まれています。国土交通省では、2012年で36名の在職死亡があり、東北地整管内では、昨年7名もの在职死亡者が発生しています。時間外勤務の規制や不急な深夜のメール、休祭日出勤のあり方の見直しを要求してまいります。

6. 職場からパワハラメントの一掃

パワハラを「しない」「させない」「見逃さない」立場から情報網を巡らすと同時に、管理職員にはパワーハラスメントに関する理解と浸透を図るため機関紙や政策オルグなどで訴えていきます。

7. 災害対応にかかると管理職員への処遇改善

災害対応は「国民の命と財産を守る」ということから管理職においては休祭日出勤や時間外勤務の否定はできませんが、意味のない必要以上の拘束の見直しや手当の支給を要求します。

8. 健全な公共工事の遂行について

建設業界は、大手企業に働く労働者もノルマに振り回され大変な過重労働を強いられれています。また、下請け企業に働く労働者も重層下請け構造の元、低賃金とすさまじい労働強化の環境に置かれています。大企業の儲けを優先させ、そこに働く職員や労働者を低賃金過密労働で働かせることに歯止めを掛けるため改めさせていただきます。

第85回メーデー 全国305カ所で開催

安倍政権の暴走を許さず、大幅な賃上げの実現などをかけて1日、第85回メーデーが全国305カ所で開かれました。東京・代々木公園で開催された中央メーデーには2万7000人が参加しました。集会後、都内3コースをデモ行進し、くらしと雇用を破壊する政治をやめさせようとアピールしました。ユニオン本部も関東支部と共に中央メーデーに参加し、気象レーダーを搭載したデコレーションカーの後を国土交通労組と共に恵比寿コースを行進しました。



北陸・近畿・中国・地理でも参加

各地で実施されたメーデーには北陸・近畿・中国・地理支部などが参加しました。



北陸の仲間



近畿の仲間



中国の仲間



地理の仲間